

3. 産業の育成及び地域活性化

【幌加内町まちづくり研究会】

(1) 地域の課題

幌加内町は、日本一のそばの産地で、毎年、約4万人が集まる新そば祭りを開催していますが、祭りの賑わいと平時のまちや商店街の寂れは、あまりに格差が激しすぎる状況です。

また、人口減少に伴う消費減や後継者問題により商店の閉店や廃業が続いており、日常的に利用できる食料品店は農協店舗しかなく、車を持つ住民の多くは、町外で買い物をしている状況です。

(2) 研究グループの目的

「幌加内そば」のみならず、本研究の成果を農業・産業・観光の振興に波及させ、幌加内町全体のブランド力を高め、活力ある地域をつくる。

(3) 研究グループの構成員

- ・実施主体：幌加内町商工会
- ・関係団体：観光協会
- ・金融機関：北空知信用金庫幌加内支店
- ・行政機関：幌加内町（商工、地域振興）

(4) 研究グループの検討内容

研究会では、はじめに「新そば祭り」や(株)ほろかない振興公社の活動など地域の取組を学び、参加者によるワークショップで地域の課題や解決に向けた取組について検討を進めました。ワークショップであがった課題と対応の方向性は次のとおりです。

○地域課題

- ・人口減少、高齢化
- ・不便な交通網
- ・雇用問題
- ・住宅不足
- ・不便な買い物環境
- ・観光の衰退
- ・そばの振興

○対応の方向性

- ・地元で働ける場を提供、人口流出防止、移住希望者の生活安定化に寄与
- ・特産品の開発、販売による商店街の売上、利益向上
- ・朱鞠内湖や温泉、スキー場を訪れる観光客の拠点整備による観光客の増加（宿泊施設の併設も検討）
- ・そば打ちを通じた地元住民の憩いの場、

交流の場を提供

研究会では、これらの課題解決の方向性に沿って、2つのビジネスプランを作成し、実現可能性の検証を行いました。

○道の駅の有効活用

- ・地元高校生による手打ちそば提供
- ・新商品の開発

○民間出資による製麺工場の建設

- ・贈答用乾麺製造

(5) 研究会の検討課題を踏まえた取組

ビジネスモデルの検討では、必要とされる機能や建設候補地、プロモーション方法など様々な意見が出されました。

その中で、新たにゆるキャラを作る意見があったことから、研究会のメンバーを含めたゆるキャラプロジェクトを立ち上げ、一般公募を経て、新そばまつりでゆるキャラ「ほろみん」をお披露目、町の観光大使として活躍しています。

また、景観プロジェクトを立ち上げ、そば畑の草刈りやそば畑ビューポイントの看板を設置するなど、研究会で出された意見を踏まえて実施可能なところから取り組みを進めています。

(6) 今後の事業展開

今後の課題としては、ビジネスプランを実行するための組織や人材が不在で、体制づくりに時間を要することや関係機関との調整が必要であることがあげられることから、引き続き、研究会の参加者を中心に課題の解決に向けた協議を続けていきたいと考えております。

<専門家からのアドバイス>

- ・幌加内町は、生産量日本一を誇る蕎麦や日本最大の人造湖である朱鞠内湖、日本最寒記録など多くの地域資源に恵まれており、高い可能性を秘めています。これらの地域資源を活かすために、今後は中核人材の育成と組織作りに注力していくことが重要です。

【(株)コンサルティングオフィス辻村 辻村英樹 氏】